



鶏 けいめい 鳴

2007年10月14日(第6号)

イエスの言葉

『赦されることの少ない者は愛することも少ない』聖書(ルカ福音書7章48節)

牧師 河合裕志

ある時イエスはシモンというユダヤ教ファリサイ派の人から食事の招きがありこれを受け彼の家に行った。ファリサイ派はかねてイエスを先祖伝来のユダヤ教を破壊する危険人物とマークしていた。そんなシモンが今なぜイエスを招待したのかわからない。訴える口実を得ようとしたのか。イエスはしかし広い心でこの招きに応じた。

食事が始まった時そこに一人の「罪深い女」が上等な香油の入った石膏の壺を持ち入ってきた。娼婦であったろう。彼女はイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。良い香りが部屋一杯に広がったがシモンははなはだ不機嫌だった。「イエスは事もあろうに罪深い女のなすがままに身をまかせている。実にけがらわしいことだ。けがれが伝染するじゃないか」。

イエスはシモンの心を読んで言った。『この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさをわかる。赦されることの少ない者は愛することも少ない』。この女は私によって多くの罪を赦された人なので、今私に対して香油を注いで大きな愛を、感謝を表してくれた。シモン、君は正しい人なので私から

罪を赦されるという必要はないよね。だから君は私への愛は小さい。君の家に入った時足を洗う水もくれなかったことでそれはわかる。しかしこの女は涙で足をぬらしてくれた。――

ところで私達は「赦されることの少ない者」なのか。ファリサイ派シモンのように正しい人間なのか。娼婦のようくならぬ人間とは一線を画する者なのか。もしいつまでも私達がそのような思いの内であれば私達はこれからもイエスによって赦されることの少ない者としてとどまる。しかしもし自身の内に罪を認めイエスにすがらならイエスの豊かな赦しに与る。そしてイエスへの愛、感謝を覚えつつ生きる者となる。

チョット待て、罪って何だ？ 私は別に法律を犯してなんかいらないよ。罪人扱いはよしてくれ。それはそう。聖書で言う罪は先ずは自己中心という事。自分を神、絶対者とすること。自分がテングとなって他人を見下げること。この思いから具体的な罪も生まれてくる。全ての人の心に宿る自己中心の思い、これを罪と認める者をイエスはすっぱり赦す。そしてその思いが徐々に弱まり神と人への愛と謙遜な思いが増すようにイエスは助けてくれる。

集会案内

主日礼拝：毎日曜日 午前10時15分

こどもの教会：毎日曜日 午前9時

祈祷会：第4日曜日 礼拝後

婦人会・壮年会：第2日曜日 礼拝後

聖書を学ぶ集い：第4水曜日 午前10時

オリブの会：第3水曜日 午前10時

(読書会を中心に身近な問題を話し合っています。)